

### 8.03 大船渡ボランティア報告

#### 1. 1日の流れ

7:00 朝食

8:00～11:00 清掃、荷造り

11:40 昼食

12:50 新グループ遠野駅着

13:00～15:00 引継ぎ作業

16:30 夕食準備開始

19:00 夕食

20:30～21:30 ミーティング

21:40～22:10 見送り

22:30 スタッフミーティング

#### 2. 活動内容

ミーティング（自己紹介、抱負）

#### 3. 意見・感想

自分のためか被災地の人のためかという意見に分かれた。

自分のためにという意見の人は被災地の現状を見て伝えていきたい。

被災地の現状を伝えた結果、その先どうなるのかをこの一週間で考えていく。

今の自分が考えていることを胸にとどめておく。

- ついている人とついてない人とのコミュニケーションの足がかりとしていきたい。

## 明日の予定

長洞仮設住宅でベンチ作り、タッパ、チラシ配り、学童（5人）

### 8.04 大船渡ボランティア報告

#### 1. 1日の流れ

5:30 食事班起床  
6:00 朝食準備開始  
7:00 朝食  
8:30 出発  
グループ(視察組)  
9:30～10:10 陸前高田視察  
全グループ  
10:30～11:50 さいとう製菓工場見学  
12:10～12:55 昼食  
① グループ(視察組)  
13:00～13:40 大船渡市視察  
② グループ(学童組)  
14:00～15:30 末崎にてベンチ作り  
16:50～17:20 買い物  
17:30 夕食準備開始  
19:00 夕食  
19:50～21:00 ミーティング開始  
スタッフミーティング

#### 1. 1日の活動

##### ベンチ作り班(13人)

1週間組の人に向けての引き継ぎ作業  
完成1つ、作成途中2つ

##### 学童班(2人)

折り紙プロジェクト

→元々敬老会で折り紙をプレゼントすることがあったが、震災があったので仮設住宅に向けて配るプロジェクトが始まった。

→折り紙のプロフェッショナルが来てくれて、子どもたちに教えてくれた。

→高学年があまり興味を持ってくれなかったなので、それについてどうしていくか考えていきたい。グループで固まらないように座る場所を変えるなど。

### 視察感想

- ニュースで見たのと同じように感じた。時間が経ってるのにまだ瓦礫が残っている。写真やぬいぐるみが残ってたりするのを見ると実際に生活していた実感がわいた。
- 瓦礫と言われるとゴミのようなイメージで受け取るけれども、元々は持ち主がいたものだから、瓦礫と報道されることに違和感を感じた。
- 被災地という言葉で一括りしてしまうが、実際には場所によって被害の状況も規模も違うというのが分かった。
- 自分達が今見てもすごくショックを受けるのに、当時実際に見ていた住民の方の精神的なショックは想像がつかない。
- ニュースで聞いて津波の高さを知っていたが、実際にスーパーの被災状況を見てこれだけの高さまで来たことに驚いた。
- 積み上げられた瓦礫、冷凍保存されていた魚はどこでどう処理するのか？  
→大船渡のセメント工場で 800 度くらいの温度で燃やしているが、陸前高田の瓦礫も燃やしているから、年単位で全てを失くそうとすると時間がかかる。  
→魚は全て船に載せて深海に投棄している。
- 被災した町の再建の方向性は？  
→住居地区に高さの規制をする。  
→道路を作る場所に土を盛って、堤防的な役割をする。  
→国が方針を示してやろうとする傾向は見えない。  
→被災状況は場所によって違うから国が復興基準を定めたとしても、どの程度まで基準を定めるかが問題になる。

### かもめの卵の工場視察

- ベンチ作りをしている時にかもめの卵の元副社長さんが来てくれて、そこでの出会いから視察に行くということにつながった。

### 工場の被災状況

- 働いていた 250 人は全員無事だった。
- 250 人中 50 人は解雇されてしまった。
- これからは雇用を増やしていく予定。
- 従業員の中には家族や親せき、友人などを亡くした方は多くいた。

- 当時、従業員に連絡がつかなかったが、掲示板に従業員が安否を書いたから情報を知れた。
- 当時、工場が持っていた在庫を被災した方たちに配布した。

#### 工場見学の感想

- 震災後お菓子を配るなどの助け合いがあった。
- 地元の助け合いがあり私たちのボランティアがある。
- 企業の目線で今回の地震について見る事ができた。
- 外からだけではなく中からの支援が大切である。
- 今回のボランティアを通して今回の工場見学のつながりが生まれた。
- また今回の工場見学を通してお祭りでの民謡ができるようになった。

#### Q、復興を優先させる？心の整理を優先させる？

- 被害の差によって心の中のことを吐き出せない人がある。
- 気持ちの整理ができてないのに被災地の方に頑張れというのは違和感がある。
- 気持ちの整理のため人と人とのつながりが大切。
- 被災地の方は非日常が日常になってしまっている。
- ベンチ作りを通し心の整理がついている人と交流をし、それにより心の整理がついている人とついてない人とのコミュニケーションの足がかりとしていきたい。

#### 明日の予定

長洞仮設住宅でベンチ作り、タッパ、チラシ配り、学童（5人）

8.05 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 朝食班起床

6:00 朝食準備開始

7:00 朝食

8:20 出発

① ベンチ作り班（9人）

午前 ペンキの色塗り

午後 タッパ、チラシ配り

② 井川（きほ、たえちん）

9:25 到着

9:30～9:45 勉強終了

9:45～12:00 [低学年]プール [高学年]パラパラマーケットの準備

12:00 昼食

12:00～13:30 ゴロゴロ時間

13:30～14:30 パラパラマーケット

14:30～15:30 おのおの自由に遊び

15:30 出発

③ 浜っこクラブ（かける、きりごん、まつこさん）

9:35 到着

10:10 動物探しゲーム

10:30 外遊び

12:00 昼食

13:00～14:00 中遊び

14:00～15:00 外遊び

15:00 おやつ

15:20 出発

16:20 長洞初

17:20～17:50 買い物

18:00 帰宅

18:10 夕食準備開始

19:00 夕食

20:30～22:30 ミーティング

## 2. 1日の活動

### ① ベンチ作り班（9人）

- ・ペンキの色塗りは15、16個完成。
- ・タッパ、ビラ配りは314戸中290戸に配った。

### ② 井川（2人）

- ・学習指導
- ・パラパラマーケットとプール遊びを行った。
- ・子どもの自主性を促す活動を行った。

### ③ 浜っこ（2人）

- ・動物探しゲーム
- ・学習指導
- ・チョークでお絵かき
- ・外遊び、中遊び

#### Q、ペンキ塗り、タッパ配りをして何を感じた？

- 今まででは各戸を訪問しても何をしているのと聞かれたが、青山学院大学の者ですと名乗るとベンチ作ったり、お祭りの人だよねと言われるようになった。  
＝今までの効果で活動が住民に広まっている。
- 住民の方から色鉛筆で絵を描けるセットを頂いた  
→お祭りで活かすことができないだろうか。
- どう話しをしたらいいか分からなかったが、接してみると被災者ではなくて一般の人と変わらないんだと感じた。
- 訪問して初めの時は何だろうという不審な目があったりするが、ボランティアをしていて、今度お祭りをするんですなどと言うとフレンドリーに接してくれるようになった。話し相手を求めているようにも感じた。
- 仮設の部屋の中はかなり暑い。物干しざおも高い位置にあって不便そう。
- 仮設の何号棟かによって雰囲気が違うように感じた。

#### Q、どこまで個人の要望に応じて支援をしていくべきなのか？

- 人によってニーズは違うし、全員に応えていくことはできない。
- 個人のニーズに応えていくときりがない。

- 将来的には被災者が自立していかなければならないことを考えれば、個人のニーズに添えていくことが復興ではない。支援はいずれ無くなっていくものだから。

Q、お年寄りの方など支援が必要な人は今後どうすればよいか？

- 自分たちが今は支援していくけれども、いずれは現地住民のコミュニティが助けあえるようになっていくのが理想。

Q、今後現地住民のコミュニティを形成していくにはどうしていくべき？

- 今の自分たちがしているベンチ作りがひとつの住民同士の交流のきっかけになって、そこから仮設住宅に自治会などができて助けあえるコミュニティができていけばいいと思う。

Q、学童保育で何を感じたか？

- 遊んでいる時に津波を言葉にすることが多い。

Q、津波遊びをしている時にどう対応する？

- その場に出くわしたら戸惑うと思う。
- 子どもは上手く言葉でだすことができなくて、行動や態度でその気持ちを出すことが多いから、遊びによって吐き出したかった思いを出させるのがいいと思う。

Q、なんで津波遊びを止めないべきだと思う？

- メンバーのほぼ全員が止めないべきだと思っていた。
- 止めないべきだ考えるのは子どもにとっての気持ちの整理だと思うから。
- あまりに騒ぎすぎている場合には止めにはいることもあると思う。
- ストップするわけじゃなく助長もするわけじゃなくて上手くその遊びを終わらせてあげる。
- そんな時、自分はどうするんだろうと常に考えて行動していけば、問題が起きた時に対応していくことができる。

**明日の予定**

午前中は末崎にてベンチ作り、午後は総合運動公園でお祭り、学童保育（4人）

8.06 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 朝食班起床  
6:00 朝食準備開始  
7:00 朝食  
8:15 出発

① ベンチ班 (10人)

9:30 末崎着  
9:30～12:00 ベンチ作り  
12:00 出発  
12:10 碁石海岸にて昼食  
12:50 出発  
13:30 長洞着  
13:30～14:00 お祭りのミーティング  
14:00～16:00 準備

② 井川 (きほ)

9:25 井川着  
9:25～10:00 学習指導  
10:00～12:00 中遊び  
12:00 昼食  
12:00～13:30 ゴロゴロ時間  
13:30～15:00 中遊び  
15:00 おやつ  
15:00～15:30 中遊び  
15:30 井川発

③ 浜っこ (まつこさん、ひがぴょん)

9:30 浜っ子着  
9:30～10:00 学習指導  
10:00～12:00 遊び  
12:00～13:00 昼食



13:00～15:00 遊び

15:00 おやつ

15:30 出発

16:00～19:00 お祭り

19:00～19:50 片付け

19:50 長洞出発

21:20 帰宅、夕食

22:00～22:30 ミーティング

## 2. 1日の活動

### ① ベンチ班

- ベンチの作成（15個完成）
- 住民が10人前後集まった

### ② 井川

- 学習指導
- その他遊び

### ③ 浜っこ

### ④ お祭り

- 食事班、イベント班、会場設営に分かれ作業

## お祭りの感想

- 足の不自由な方が参加しにくい状態にあったので、家の窓から見ていた。
- 最後にごみあまり落ちてなくていいイベントなんだと感じた。
- 斎藤さんという住民の方がお祭りの中で自分たちがベンチ作りをしているコンセプトを話してくれたことはとても嬉しかった。
- このお祭りは住民同士がつながる長い道のりの第一歩。
- 仮設住宅の住民たちも私たちのコンセプトを理解してくれていて嬉しかった。

## 明日の予定

末崎ふるさとセンターにてお祭り開催



8.07 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

7:30 食事班準備開始  
8:30 朝食  
9:40 礼拝組出発  
10:00～11:00 遠野教会にて礼拝  
11:00 遠野教会出発  
12:30 末崎到着  
12:30 昼食  
13:00～15:45 お祭り準備  
15:45～19:00 お祭り  
19:00～20:00 片付け  
20:00 出発  
21:10～23:45 夕食  
23:00 帰宅

2. 活動報告

- お祭りでのブースの手伝い
- 盆踊り
- ビンゴ大会

8.08 大船渡ボランティア活動報告

1. 1日の流れ

6:30 朝食班起床

7:00 食事準備開始

8:00 朝食

① ベンチ作り班

9:00 出発

10:15 到着

10:15～12:40 ベンチ作り

12:40～13:15 昼食

13:15～15:50 ベンチ作り・片付け

15:50 出発

17:00～17:25 買い物

17:30 帰宅

② 浜っこ（まつこさん、かける、みきてい、ひがびょん）

8:50 出発

10:00 到着

10:00～10:15 学術指導

10:15～10:40 折り紙

10:40～11:00 動物探し

11:00～12:00 外遊び・学術指導

12:00～12:30 昼食

12:30～13:30 中遊び

13:30～14:00 作品作り

14:00～15:00 外遊び

15:00 おやつ

15:30 出発

17:00 帰宅

③ 井川（きほ、すみとうん）

8:50 出発  
10:00 到着  
10:00～12:00 プール  
12:00～12:30 昼食  
12:30～13:30 ゴロゴロ時間  
13:30～14:10 動物探し  
14:10～15:30 中遊び  
15:30 おやつ  
15:40 出発  
17:00 帰宅

17:30 夕食準備開始  
19:00 夕食  
20:15～21:40 ミーティング  
22:00～22:30 スタッフミーティング

1. 1日の活動

● ベンチ作り (6人)

● 場所：地ノ森仮設住宅

→大船渡で最も早くできた仮設住宅。優先的に仮設住宅に入った方がいい人を対象にした。  
病気や身体が不自由な人など。

● 台数：ベンチ 7 台

● お茶の差し入れや工具を貸してくれたりなど。

● ポスター (4人)

地ノ森仮設住宅：3枚

越喜来仮設住宅：3枚

● 学童保育 (4人)

● 赤崎：にこにこ浜っ子クラブ

子どもの数：23人

● 折り紙で作ったものを山口仮設住宅に配布準備。

● 猪川：きっずくらぶ猪川

子どもの数：3～4年生 3人

1～2年生 18人

プール遊び、動物探しゲーム、読書

感想

Q、学童保育で子どもが制御出来ないような状態になってしまった時どうするか？

→スタッフの一員で参加しているから自分で判断して行動する。そのあとで指導員の方にその判断で良かったのかを聞いてみる。

Q、子どもが被災した時のことを話し始めた時にどう対応すればいいか？

→自分たちが戸惑いを見せてはいけない。

→人それぞれだから踏み込んで質問していくか、頷くだけかは答えはでない。

#### **末崎仮設住宅のお祭り感想**

- 末崎仮設住宅：元々漁村のそこから来ている人が多いから元からあるコミュニティの繋がり強い。

Q、総合運動公園でのお祭りと比べて住民の方が食べ物を持ち帰ることが多かったが、そういう場合はどうやって住民をコミュニケーションの場に参加できるか？

→食べ物を配っている時に積極的に声をかけてベンチに座ってもらうようにする。

→外にでていくことが難しいから持ち帰ってる場合もあるので、中々難しい。

明日に予定：学童保育（5人）地ノ森でベンチ作り、チラシ配り

8.09 大船渡ボランティア活動報告

1. 1日の流れ

6:00 朝食班起床

7:00 朝食

8:15 出発

① ベンチ班

9:30 到着

9:30～12:00 ベンチ作り

12:00～12:45 昼食

12:45～15:20 ベンチ作り

15:20 出発

16:30～17:00 買い物

17:10 到着

② 井川（たえちゃん、のんたん）

9:30 到着

9:45～11:00 レクリエーション

11:00～12:00 中遊び

12:00～12:30 昼食

12:30～13:30 ゴロゴロ時間

14:00～14:30 プール

14:30～15:00 中遊び

15:00～15:30 レクリエーション

15:40 出発

16:00～17:00 山口仮設住宅の住民に児童の作った作品配り

17:00 出発

18:20 到着

③ 浜っこ

9:40 到着

9:40～10:00 学術指導  
10:00～10:30 動物探しゲーム  
10:30～12:00 遊び  
12:00 昼食  
12:30～14:00 中遊び  
14:00～15:30 外遊び  
15:50 出発  
16:00～17:00 山口仮設住宅の住民に児童の作った作品配り  
17:00 出発  
18:20 到着  
  
19:00 夕食  
20:15～22:40 ミーティング

1. 1日の活動

キッズクラブ猪川

- 子どもの数：17人
- ゲーム：動物探しゲーム

にこにこ浜っ子クラブ

- 活動内容：学術指導、水遊び、ビデオ鑑賞、外遊び
- 山口仮設住宅に折り紙で子どもたちが作ったものを配布。

ベンチ作り

- 場所：地ノ森仮設住宅
- 問題：前回と同じ場所でベンチ作りをしていたところ近隣住民から苦情があり、集会所横に移動して活動をした。
- 数：11個完成。計17個。

感想・意見

- 大船渡市の中で地ノ森仮設住宅は最も進んだ自治会であると言われてる。
- 地ノ森仮設住宅における課題：棟と棟のコミュニケーションが取りにくい。
- 横の繋がりがあっても縦のつながりが弱い。

→今度のお祭りにおける1つの目的は棟と棟の壁を越えた交流を持つこと。

→仮設住宅とその外の住民たちとの交流を作ることがこれからの課題。



第4陣 2011年8月3日～10日

## 8.10 大船渡ボランティア報告

### 1. 1日の流れ

12:40 遠野駅着  
13:00 引継ぎ開始  
16:30 夕食準備開始  
19:00 夕食  
20:20 ミーティング  
22:30 スタッフミーティング

### 2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

### 3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
  - 自分の友人の友人が津波の被害にあった。
  - 自分の親が震災当日に仙台にいた。
- 何か行動に移したい。
  - 義捐金などの間接的な支援ではなく、自ら現地を訪れ直接的な支援がしたい。
  - とにかく、人の役に立つことがしたい。
- 自分の目で見たい。自分の耳で被災者の方々の声を聞きたい。
  - それを、自分の将来に役立てたい。
- ボランティアの参加期間
  - 短期的な参加ではつかめるものが少ない。長期的な参加であれば、何かより強い手ごたえが得られるのかもしれない。
  - 我々第5陣は、第1陣から第4陣までの活動を引き継ぎつつ、新たなものを創出し、第6陣へしっかりと引継ぎを行うことが重要なミッションである。
- ボランティアをやる人の身分などはボランティアを受ける人にとっては関係ない。ひとりひとり責任を持って行動する必要がある。